第４部

環境を支えるきめ細かい地区づくり

ー地区の活動で環境を創り出そうー

第１章　地区別計画のめざすもの

●我孫子の市街地は、手賀沼と利根川の南北の広々とした自然と隣り合っているという自然構造の特性を備えていますが、地区毎に地形、緑や水などの環境を取りまく状況は異なります。このため、市街地、樹林地、水田、手賀沼・利根川などの環境の特性を踏まえて５つの地区に区分して、地区のまとまりを検討していきます。
●さらに、我孫子全体では自然が減少していますが、各地区ごとに詳細に見れば、まだまだ貴重な自然環境があり、それを再発見し、活用する必要があります。
●各地区では散歩を楽しむ人々は多く見かけますが、自然とふれあうというよりも、自然を眺めて楽しむことが中心になっているのではないでしょうか。
むしろ、一年間のくらしの中で自然と接する機会が組み込まれるようなしかけをつくることが課題です。
●このように、地区の中ではまだまだ貴重な自然環境がありますが、その意味や価値がなかなか理解されていない現状とのギャップを埋めるために、「空間」という視点から次の２点を基本的考え方として環境を支える地区づくりにより、地区のまとまりをつくっていきます。

★地区の自然構造を踏まえながら、市街地の中で地区の核となる環境の拠点を明確にし、自然と人によるネットワークを形成する
★市街地の後背地となる広々とした自然とのつながりを再発見し、魅力を高める

●これは、地区の市街地の中で自然構造・自然環境を感じられるような「まちの中の自然の空間」を創り出し、そのようなくらしを通してさらに市街地の外の「自然の広がりの魅力」を感じられるような地区の構造にしようとするものです。
●まず、市街地の中でも比較的豊かな自然が残された樹林地や空間を活用し、自然観察や雑木林づくりなどを通じて自然のしくみを知り、自然とふれあい、日々のくらしを営む市街地の中で自然と接することができるような【環境の地区拠点】づくりを行います。
●また、湧き水、斜面林、歴史的・文化的遺産、緑豊かなまち並みなど地区の環境としての財産を活用して【自然と人との環境のネットワーク】を形成していきます。
●さらに、手賀沼・古利根沼・利根川そして水田地帯の広々とした空間で、貴重な自然環境を再発見し、自然にふれあえるようなしくみを創り出して【広がりの魅力づくり】を進めていきます。
●このような【環境の地区拠点】【自然と人との環境のネットワーク】【広がりの魅力づくり】を地区の空間を構成する要素として、各地区のまとまりを創り出していきます。
●そして、このような地区の空間づくりを進めていくためには、地区の現状を身近に感じている市民の参加が欠かせません。むしろ、まちづくりの主人公としての市民の活動こそが、地区づくりを進める原動力となります。このため、市民の活動を中心に、市民と市との協働と連携を図るため【地区づくりの基本的指針】をまとめました。

第２章　地区別計画

（1）我孫子地区

1）地区の環境の課題

手賀沼景観を活かした住宅地を演出する

●手賀沼の眺望や景観を活かして、昭和 20 年代から開発が進んだ白山、緑の住宅地は、道路の幅員は狭いものの、比較的宅地面積が広く、宅地内に木々がある緑豊かな落ち着いた住宅地でした。
しかし、近年の開発では、宅地の区画は小さくなり、宅地内樹木は減少し、さらには斜面林での開発も進んでいます。
●一方では、斜面林と見まちがうほどの宅地内樹木の保存に力を入れている人や斜面林のすそにある湧き水の保全活動を続けている市民もいます。
●手賀沼の水辺、斜面林、そして閑静な住宅地が続き、木々の間から手賀沼を眺めることができる環境は、まちの誇れる住宅地のあり方です。
●このような、我孫子独自の住宅地形成の成り立ちを踏まえ、住宅地の環境を守り続けていくことが必要です。さらに、対岸からの景観に配慮することも大切です。

住宅地の質を高める

●我孫子地区の北側は、1970(昭和 45)年前後に開発された並木、つくし野、久寺家などの住宅地を中心として構成されています。
特に、つくし野では、地区計画により生垣など緑豊かなまち並みをつくりだす努力が続けられています。
さらに、つくし野、並木では、自治会を中心とした緑地帯や街区公園の自主的な管理が行われており、緑の演出での市民参加が進んでいます。
●しかし、かつて新興住宅地といわれた開発地域は、定住後約 40 年が経過し、高齢化も進む一方で、住宅の建て替えも進み、今後、まちの様相が変わる可能性があります。
●このため、これまでの市民の努力の積み重ねを基本に、さらに緑あふれる住宅地づくりを進めることが必要です。

市街地の中の自然環境の財産を再発見し、活用する

●かつての低湿地である谷津田が開発されたため、樹林地や文化的遺産が比較的少ない地区といえます。しかし、根戸小学校の後背地の森やつくし野と久寺家とが接している樹林の下での湧き水など、環境的に貴重な財産があり、このような財産を活用したまちづくりを進める必要があります。

久寺家・布施地域の農業を支え、農村環境を守る

●久寺家・布施地域では、台地での畑作や北新田での稲作が熱心に取り組まれています。
●今後の環境づくりと市民のくらしづくりの視点から、農業の位置は大切で、都市住民の人々との交流のしくみを創り出しながら農業と農村を支えていく必要があります。

広々とした自然空間に生息する生物の営みを探る

●北新田の広々とした水田地帯は、水稲栽培と共存して野鳥や魚など多様な生物の生息空間でもあります。また、用排水路には、様々な水生生物が生息しています。
●このような広々とした自然空間の中に様々な生物が生息・生育していることを知り、農業と共存してきた自然環境の保全・活用を図る必要があります。

手賀沼の歴史的・文化的遺産を活用する

●大正時代には、手賀沼の自然景観での癒しを求めて文人墨客が移り住み、新たな創作意欲が醸成され、文学や陶芸などが花開いた一時代が築かれました。そのような文人墨客の邸宅などの歴史的・文化的遺産が集積しているこの地区の特性を活かすことが、手賀沼の自然環境を守り、育てることにつながります。
●このため、点在する歴史的・文化的遺産をより活用できるように工夫し、それらをつなぐまち並みづくりを行う必要があります。
さらに、訪れる人々が気楽に利用できる方法を工夫し、手賀沼の魅力を実感できるしかけをつくる必要があります。

根戸に残された手賀沼の原風景を財産として、新たな交流を創り出す

●手賀沼の中から眺めた根戸地区は、水面、農地、農家と続き、さらにその上には斜面林が広がっている手賀沼の原風景の一つです。
この財産を、多くの市民の手で、守り育てようと、農家と市街地の人々が連携し、農作業などを共有しようとする活動が定着しつつあります。
●このように、手賀沼と共にくらしが営まれてきた農村環境をまちの財産として活用し、農家と市街地の住民との交流空間にすることが必要です。
●また、根戸地区の森と農地は、首都圏から我孫子への入口であり、車窓からの景色としても我孫子を感じることができる景観で、地理的・地形的位置づけを明確にする必要があります。

2）地区づくりの基本的指針

自然環境を感じ、学べる根戸小学校周辺の樹林地を地区の拠点とする

●根戸小周辺の樹林地は、緑の基本計画でも地区の核となる緑として位置づけていますが、さらに自然環境に配慮した樹林地として多様な生物が生息できる地区の拠点にし、自然観察・昆虫採集・きのこ狩り・落ち葉での堆肥づくり、雑木林づくりなどを行うことができる環境学習のフィールドとします。

より緑あふれる住宅地づくりのため、市民が協働できるしくみをつくる

●緑のまち並みづくり、市民による街路樹、緑地帯、街区公園での緑の保全・管理、ミニ雑木林づくりなどの着実に続けられている市民の活動をさらに支援し、“緑あふれる住まいとくらし”をテーマとした経験交流や新たな試みの発掘などにより、人々のつながりと支え合いで市民が協働できるしくみをつくります。

農村と市街地の交流で、農村の風景を守るしくみを創り出す

●久寺家、布施地域は市内でも有数な畑作地域で、昔ながらの我孫子の農村風景が残っているところです。
●また、市街地と隣接しているこの地域の立地を活かしながら、地区内外で生産と消費が直結した直売や農作業支援ボランティアの育成により、農家と都市住民が連携できるしくみをつくり、農村の風景を守っていきます。

広々とした水田での多様な生物との出会いを大切にする

●北新田の広々とした自然空間の中で、用排水路には今では貴重となった水生生物が生息し、広々としたヨシ原や水田は多くの野鳥がくらすオアシスとなっています。そのような、豊かで多様な自然を再発見できるような自然観察会や自然と親しむ活動づくりなどを行っていきます。さらに、そこで様々な生物と出会うことにより、農業が支えてきた自然環境に対する理解を深めていきます。

歴史的・文化的遺産と緑豊かなまち並みを活用し、新たな交流の輪を広げる

●この地区の特性である文人墨客の足跡や社寺・史跡等を巡る散策ルートと、住宅地の緑豊かな沿道景観とのつながりを強め、文化と緑のまち並みづくりを進めていきます。
●さらに、インフォメーションセンターや市民によるガイド活動との連携により我孫子を訪れる人々が気楽に利用できる案内方式を創り出し、環境を中心とした新たな交流システムを構築していきます。

（2）天王台地区

1）地区の環境の課題

自然と接することができる足がかりをつくる

●地区内の市街地の中には、まとまった樹林地や農地などの自然と接することのできる拠点がありませんが、一歩市街地の外に出ると、南側には、手賀沼とその周辺に広がる水田、樹林地、谷津田等の自然環境が広がり、北側には北新田の水田地帯が大きく開けています。
●このような広々とした自然空間を知り、活用し、支えるためには、まず市街地の中で自然と接することができるような足がかりをつくり、それをきっかけとして広大な自然と接することが必要です。
●一方、天王台、柴崎台、青山台等の住宅地の主要道路には街路樹がありますが、宅地内やその沿道に目を向けると緑は少ない状況です。しかし、下ヶ戸、青山、柴崎には、社寺の周辺や集落の道沿いに屋敷林や生垣が比較的多く残っています。住宅地の中での緑づくりを中心とした市民活動の活性化が必要です。

学校・市民による活発な環境づくり活動の輪を広げる

●地区内の小中学校では、学校の周辺農地で稲作や畑作などの農業体験を行い、林間・修学旅行で環境学習が続けられています。さらに、地域の人々を環境学習の先生とする取組みも行われています。
●また、リサイクルと地域福祉の連携をめざした「ふれあい工房」では、不要となったり、壊れたりした物を持ち寄り、修理・再生し、また再利用により新たな物づくりを行っています。さらに、市民がリーダーになって作業を指導しており、多くの人々が積極的に利用しています。
●このような、学校、市街地の人々、農家などが連携した環境づくりの輪をさらに広げていくことが必要です。

自然の楽しさ・面白さを発見できるしかけをつくる

●手賀沼沿いには、手賀沼親水広場、鳥の博物館、岡発戸市民の森、五本松公園、手賀沼ビオトープなどの環境の拠点がありますが、十分に活用されているとはいえません。全市的な環境軸づくりとあわせ、市民が自然と接し、自然を活用できるしくみをつくることが必要です。
●一方、北側の北新田は、広々とした自然の中に多様な生物が生息する貴重な自然空間ですが、国道６号などによる分断のため、大切な自然環境として注目されにくい存在となっています。このため、生物観察などを通じた自然の魅力を発見できるしかけづくりを進めていくことが必要です。

2）地区づくりの基本的指針

環境の拠点にふさわしい近隣公園（*注）とし、身近な自然空間を創り出す

●近隣公園である柴崎台中央公園と天王台西公園は、市街地の中での数少ないオープンスペースで、地区の緑の核となっています。この公園を活用し、市民の手によるビオトープづくりを進め、自然への働きかけを通じて自然を感じ、学べるような地区の拠点としていきます。

小中学校での環境学習と連携し、地区での交流ができるサブ拠点をつくる

●各小中学校及びその周辺で、ビオトープなどの自然と接し、自然を学べる場づくりを行い、これらをネットワーク化して、市街地での自然と接する機会を増やし、近隣公園による地区の拠点づくりを補完します。
●さらには、ビオトープづくり、雑木林づくり、農業体験などの自然体験活動を通じての学校と市民との交流を進め、地区における自然と人とのつながりを創り出していきます。

ふれあい工房を活用して、リサイクル活動の輪を広げる

●ふれあい工房を核に、木工・工芸などのリサイクルによる市民相互に支え合うことができるような活動の輪を広げていきます。さらに、地域福祉との連携を強め、福祉機器の再利用や住宅改造の拠点へと発展させていきます。

まちの風景づくりのためのしくみとつながりをつくる

●天王台、柴崎台、青山台等の開発された住宅地で新たなまちの風景づくりを行うため、市民による生垣づくりや街路樹の管理を支援し、さらに沿道や窓辺を緑で演出するためのガーデニングなどへの取組みを広げ、緑あふれるまち並みづくりを進めていきます。
●一方、下ヶ戸、青山、柴崎に残っている、社寺の周辺や集落の道沿いの屋敷林や生垣による道の景観を、まちの財産とし、散策ルートづくりを進めていきます。

豊かな自然の中で、ふれあえ、学べるしくみをつくる

●市街地の中で取り組まれている環境活動や環境学習などのフィールドをさらに広げ、高野山、岡発戸の斜面林・湧き水・農地を活用して、雑木林づくり、猛禽類を頂点とする生態系の保全活動、湧き水とトンボ・ホタルの復活などで、市民参加による新たなしくみを創り出していきます。
●また、北新田では、水田や水路での生物との出会いにより自然の楽しさ・おもしろさを発見できるようにし、自然の広がりの魅力を知る機会を創り出していきます。

（*注）　都市公園法により定められた公園の種別の一つ。多目的な利用に供する公園として位置づけられ、都市における安らぎの場、レクリエーション活動の場、コミュニティ形成の場等としての機能を果たす。

（3）湖北地区

1）地区の環境の課題

市民が主体となった緑豊かなまち並みづくりをひろげる

●地区の住宅地の中には、まとまった樹林地や農地などはないものの、周辺住民及び小中学校によるけやき通りでの落ち葉拾いや、街路樹・湖北駅前広場・湖北台近隣センター庭園などでの市民による積極的な緑の創造と維持管理が行われています。
●このような活動を広げ、緑豊かなまち並みづくりを進めるため、市民が主体となって身近な自然の創造に取り組めるような支援やしかけを行う必要があります。

魅力ある集落の中の道や里道を再評価し、保全・復活を図る

●この地区には、人々が手を加え維持管理してきた屋敷林や生垣さらには高垣などが多く残る中里や中峠の道などがあります。
●中里市民の森から日秀の南側斜面には、古くからの里道がありますが、現在は宅地開発や藪などで分断され、人が通ることは難しい状況にあります。
●一方、集落の中の道や里道は、将門伝説の神社や井戸、大長屋門などの文化的遺産をめぐるルートでもあります。
●これらの魅力ある道を地区の環境的財産とし、保全・復活し、活用していくことが必要です。

市街地と周辺の自然環境とつながりを創り出す

●市街地を一歩出れば、南側の水田地帯には様々な生物が生息しており、柏市と境をなしている低地排水路付近では、ホタルやメダカなどの今ではあまり見かけなくなった生物が生息しています。
●また、都部、岡発戸の谷津は、谷津田と斜面林が織りなす風景が連続し、耕地整理されず湧き水で耕作する昔ながらの稲作の原型を留めた箇所や、ホタルや貴重な野鳥などが確認され、多様な生物が生息しています。
●一方、古利根沼及び周辺の樹林地では、我孫子本来の湿地環境にあった植生が残り、貴重な植物・昆虫・野鳥が確認されています。
●しかし、このような豊かな自然環境が残っている魅力が十分に認識されていないのではないかと思われます。
●このため、市街地での環境活動と連携して、周辺の自然環境の発見と掘り起こしを行い、市街地と自然とのつながりをつくり、そのつながりを強化する必要があります。

2)地区づくりの基本的指針

街区公園・学校でのビオトープネットワークで、地区の拠点機能をつくる

●大規模に開発された市街地の中では、拠点となるような自然的空間を新たに創り出すことは難しい状況です。
しかし、市街地の中には、大字ごとに街区公園が配置されており、また小・中・高校の学校もあります。
●これらの空間を活用して、それぞれの特性に応じたビオトープをつくり、それらを連携したビオトープネットワークを形づくることによって、地区全体の広がりで地区の拠点と同じ機能を発揮するようにします。
●そのビオトープづくりでは、地区の人々自身が企画し、作業を行い、管理ができるようなシステムをつくり、ビオトープを良好な状態で維持できるような工夫をします。
●さらに、日々のくらしの中で、自然と接することのできる各ビオトープを結び、市街地の中から市街地に隣接する広々とした自然へつながるようなしかけづくりを進めます。

着実な市民活動の輪を広げ、誇れるようなくらしと緑のまち並みをつくる

●市民による街路樹・湖北駅前広場・公共空間などでの積極的な維持管理活動などの地道な人々の努力を、地区全体に広げるために、生垣づくり、ガーデニングによる沿道の演出などを支援し、緑によるまち並みとくらしを誇れるような人々のつながりを創り出していきます。

集落の中の道や里道を活かして新たな散策の道づくりを工夫する

●屋敷林や生垣・高垣が続く中里、中峠の道や、古くからの里道を地区の財産として保全・復活し、沿道の環境資源を掘り起こしていくなど、新たな自然の魅力を引き出すしくみづくりを進めていきます。

古利根沼の森で、様々な人々が関わる雑木林づくりを進める

●古利根沼の南側の台地の森は、公園整備の一環として市民参加による雑木林づくりが行われています。周辺に住む人々との連携を強め、活動をより一層支援していきます。

農業が育む生物との出会いのしくみをつくる

●手賀沼干拓地の水田や、都部・岡発戸の谷津は、水田耕作が生みだし、支えてきた生物が生息しています。しかも、都市化や農業環境の変化のため、今では見かけられなくなっているホタルやメダカなどの生物が生息しています。また、貴重な野鳥も飛来しています。
●このような、かつての農村で見られた生物と出会える空間を復元し、活用し、自然の魅力をさらに引き出すしくみを創り出していきます。

（4）新木地区

1）地区の環境の課題

減少しつつある森や林にかわって、市街地の中で緑の量を増やす

●新木駅南側では土地区画整理事業により、森や斜面林のほとんどが消失しました。また、既存の住宅地の新木野は緑が少ない状況です。
●このため、地区として緑の量を減らさない必要が高まっており、区画整理事業地内での緑化を進めるためのしかけを検討するとともに、新木野では市民の協力を得ながらの緑化を進めることが課題となっています。
●また、気象台記念公園は、比較的まとまった緑が残る場所であり、現在の緑を活かし、多くの市民が多目的に利用できるよう整備を進めていく必要があります。

農業の情報を共有化し、農家と都市住民との連携をとる

●市街地に隣接する台地の畑では、施設栽培や露地栽培などが行われています。また、利根川沿いの水田や手賀沼干拓地では、よりおいしい米をつくるための工夫がされていますが、農家と都市住民との交流の機会が少ないため、農産物の大切な情報が共有化されていません。
●人々が農業に触れることにより、自然の営みを感じ、学べるよう、農家と都市住民との交流を図っていくことが必要です。

水田耕作に支えられてきた広々とした自然の魅力を引き出す

●北側の水田地帯や利根川河川敷は、市街地にない広々とした自然が残されていますが、地理的・交通的条件から訪れる人は多いとはいえません。
●南側に広がる水田地帯は、稲作による農業生産の場や広々とした田園風景としての機能ばかりか、多様な生物が生息している空間でもあります。
●このように、広々とした自然の中で営まれている農業や、多様な生物が生息する自然環境の魅力を引き出して、より多くの人々が活用できるしかけを創り出すことが必要です。

2）地区づくりの基本的指針

気象台記念公園を活用した地区の新たな環境の拠点をつくる

●気象台記念公園は、樹林地が少ないこの地区の中で、比較的まとまった緑が残る貴重な場所であるため、地区の新たな拠点として位置づけ、その一画は防災機能をはじめ地区住民が多目的に利用できるよう整備を行います。
●その際、周辺の住宅地でのまちづくりと共に、人々と協働できるようなシステムにより、手づくりによる拠点づくりを工夫します。

地区の宝である葺不合（ふきあえず）神社周辺を活用した自然観察の場をつくる

●葺不合神社は、地区の中心に位置し、巨木が残され、貴重な昆虫や植物が生息している地区の自然環境のシンボル的な存在です。
●このような自然的特性を活かし、葺不合神社及び周辺を、自然と接し、自然を観察することのできる地区の拠点として、貴重な生物の探索や巨木等との出会いで、自然を守り育てるような活動を支えていきます。

新たな市街地形成で、まちを演出する工夫を行う

●新木駅の南側地区では、地区計画により緑あふれるまち並みづくりを進めます。
●また、新木駅前線及び新木駅・布佐南線では、街路樹を活かし、布佐地区と結んだ緑のネットワークづくりを進めます。

地道な努力を重ねている農業との連携・交流を進める

●この地区の農業は、台地上では畑作・ハウス栽培などが行われ、利根川・手賀川沿いでは大部分で水田耕作が行われています。
●このような地区の農産物の特徴を活かして、農家と都市住民との連携・交流のしくみを創り出していきます。
●さらに、自然や農業の持つ楽しみや面白みを農業体験等を通じて共有し、自然の広がりの魅力を高めていきます。

布湖排水路沿いの散策ルートで、自然とのふれあい空間をつくる

●新木地区の北側に広がる水田地帯にある布湖排水路は、水田地帯や利根川河川敷等の広々とした自然へ人々を誘うきっかけとなります。
生物観察や散歩を楽しんだり、水辺で憩えるなど、多くの人々が足を運べるような空間づくりを行います。

（5）布佐地区

1）地区の環境の課題

地区の財産を活かした拠点やつながりをつくる

●この地区の中心には、竹内神社、宮ノ森公園、余間戸公園の緑が連続しており、地区の財産です。特に、竹内神社は地区の象徴ともいえ、歴史と自然の営みが感じられます。
●また、布佐市民の森では、国際野外美術展の開催が定着しつつあり、国の登録文化財である井上家住宅を舞台に活動を展開する相島芸術文化村と連携して、人々が集う魅力的な活動が続けられています。
●さらに、成田街道沿いのまち並み、布佐八景、水運と河岸などの歴史的・文化的遺産を掘り起こし、環境を高める資産として保全・復活を図ることが大切です。
●このような地区の財産を活用した拠点づくりや人々のつながりを広げることが必要です。

住宅地の成り立ちを踏まえたまち並みをつくる

●布佐平和台では街路樹が整備され、また緑地協定により、緑豊かなまち並みづくりの取組みが行われています。
●一方、布佐では、歴史あるまち並みが一部で面影をとどめていますが、区画整理された市街地での緑被率は低いのが現状です。
●かつては利根川水運と関連して水路のまちと呼ばれたほど、まち中を水路が巡っていましたが、現在は水路の多くには蓋がかけられています。
●このため、布佐の歴史的背景や市街地の成り立ちを踏まえた、趣のある布佐のまち並みを復活させていくことが必要です。

水田・湿地の魅力を再発見する

●北側に広がる水田地帯には、湖北地区から布佐地区へ流れる布湖排水路があります。この排水路は、野鳥や水生生物の生息の場として貴重な存在となっています。
●このような魅力ある自然環境を知ってもらうため、人々が訪れたくなるようなしかけをつくることが必要です。

利根川の風景と広がりを感じられるしかけをつくる

●利根川と共に歴史を刻んできたこの地区は、利根川の自然の恵みを享受してきた一方で、利根川の氾濫による水害の記憶が未だにあります。このため、利根川の堤防が整備されてきましたが、一方では市街地と利根川のアクセスが分断されてしまいました。
●今後の環境づくりでは、利根川の風景と広がりを感じられるような工夫をする必要があります。

2）地区づくりの基本的指針

竹内神社・宮ノ森公園などを自然環境の核となる拠点とする

●地区の中心の竹内神社、宮ノ森公園、余間戸公園を核として自然を感じ、自然と接することのできる地区の拠点とします。特に竹内神社は布佐の象徴ともいえ、歴史と自然の営みを感じられる中核に位置づけます。
また、宮ノ森公園は、郷土樹種の植栽、池の多自然型化などの再整備などを進め、余間戸公園との連携をふまえた空間づくりを行います。

浅間前・布佐下で市民が守り育てる環境づくりの輪を広げる

●浅間神社は、地域の人々から親しまれている森です。孤立した小さい森ですが、多様な生物の生息地でもあり、その保全・育成のため、人々が行動するしくみをつくります。
●また、隣接している布佐市民の森では、国際野外美術展などの文化芸術活動が定着し、人が力を合わせ、そして集う空間として市民の手による新たな魅力づくりが行われています。このような、市民が守り育てる環境づくりの輪を広げます。

市民主体の活動の広がりにより、住宅地の緑のつながりをつくる

●布佐平和台では、緑地協定によって緑豊かなまち並みを形成しています。
さらに、沿道を演出するガーデニングなどで、まちの魅力が一層増すようなしくみづくりを行います。
●一方、布佐らしい昔ながらの風情を復元するため、住宅地での庭木等の植栽に対して支援を行い、まちの緑のつながりをつくります。

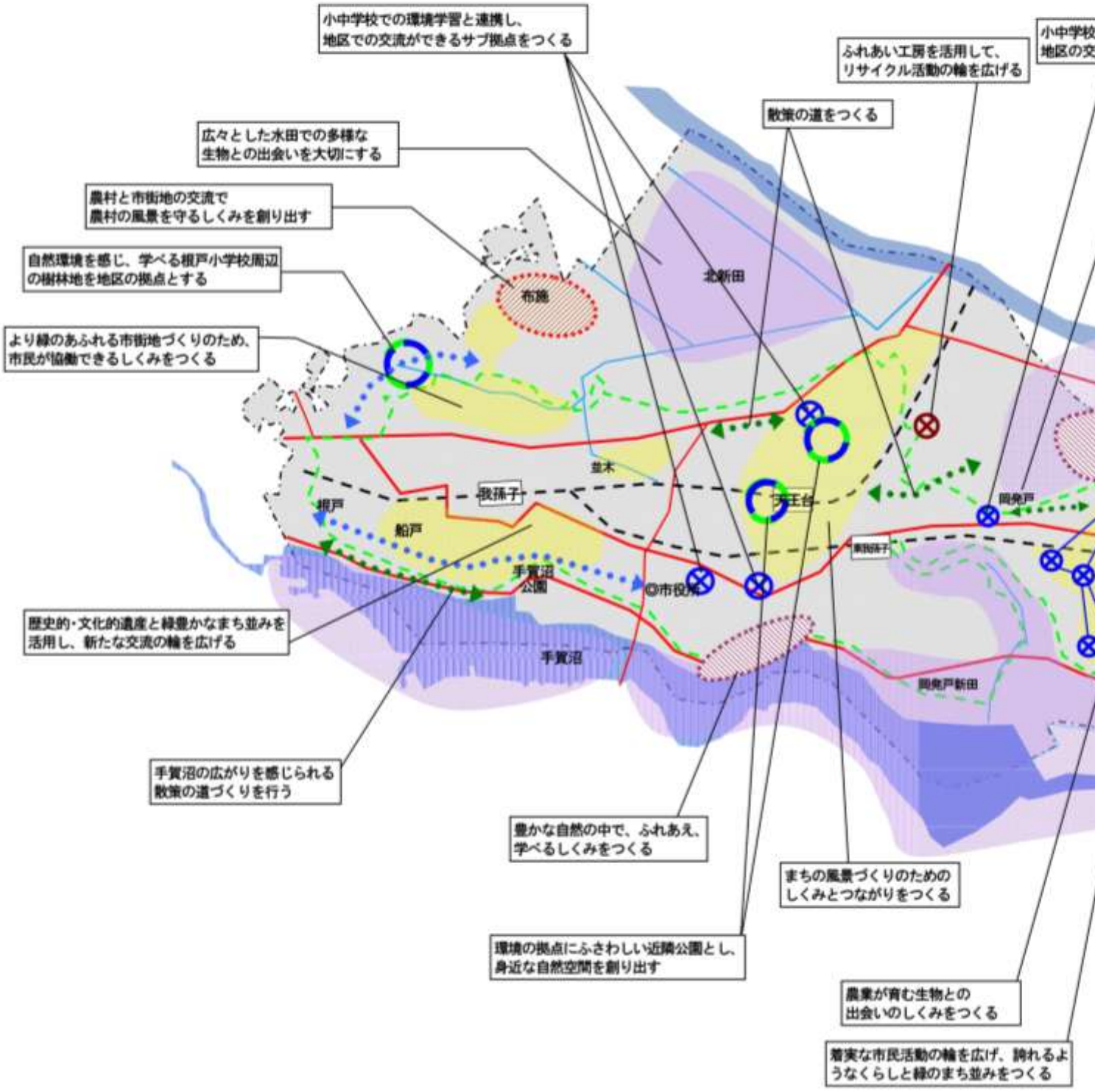
湿地・水田の生物を育み、魅力を再発見できるしくみをつくる

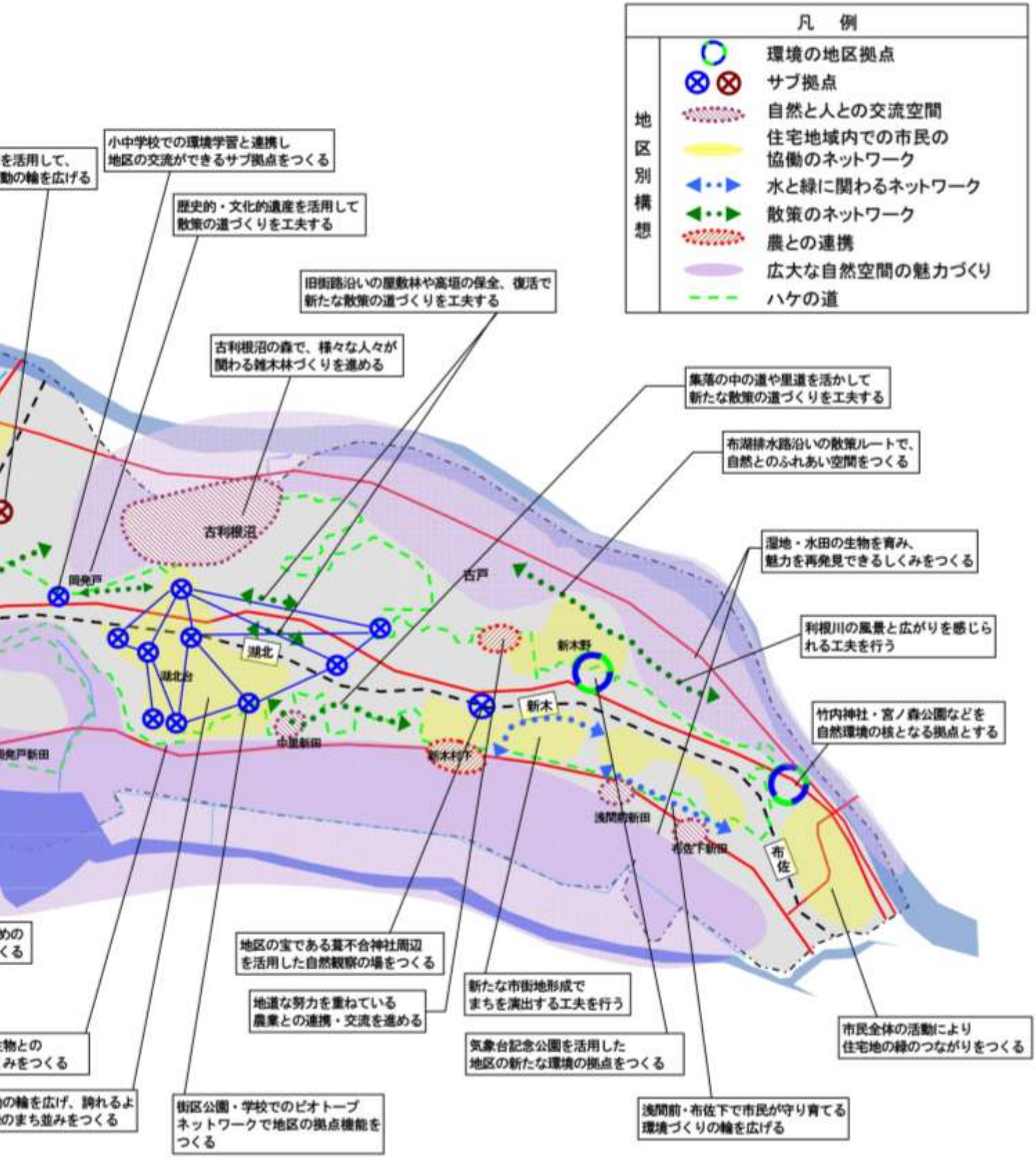
●ホタルやトンボが飛び交う水田づくりのため、無農薬での水田耕作に対して、市街地の人々が支えられるような新たなしくみをつくります。
●一方、利根川沿いの水田では、砂地の土壌を活かして、よりおいしい米づくりが工夫されています。市街地の消費者と直結できるような農業と市街地の関係づくりを工夫します。
●また、布湖排水路沿いでは、生物観察や散歩を楽しみながら、利根川の自然が感じられ、水田などの自然の価値を再発見できるしくみを創り出します。

利根川の風景と広がりを感じられる工夫を行う

●利根川、筑波山の眺望ポイントや利根川の河川敷へ容易にいける道づくりなどにより、利根川の風景と広がりを感じられ、多様な自然環境を楽しめる工夫を行います。

地区別計画構想図


小中学校での環境学習と連携し、
地区での交流ができるサブ拠点をつくる
ふれあい工房を活用して、
リサイクル活動の輪を広げる
散策の道をつくる
広々とした水田での多様な
生物との出会いを大切にする
農村と市街地の交流で
農村の風景を守るしくみを創り出す
自然環境を感じ、学べる根戸小学校周辺
の樹林地を地区の拠点とする
より緑のあふれる市街地づくりのため、
市民が協働できるしくみをつくる
布施
北新田
並木
我孫子
天王台
根戸
船戸
手賀沼
公園
◎市役所
手賀沼
開発戸
開発戸新田
歴史的・文化的遺産と緑豊かなまち並みを
活用し、新たな交流の輪を広げる
手賀沼の広がりを感じられる
散策の道づくりを行う
豊かな自然の中で、ふれあえ、
学べるしくみをつくる
まちの風景づくりのための
しくみとつながりをつくる
環境の拠点にふさわしい近隣公園とし、
身近な自然空間を創り出す
農業が育む生物との
出会いのしくみをつくる
着実な市民活動の輪を広げ、誇れるよ
うなくらしと緑のまち並みをつくる


凡　例
地区別構想
環境の地区拠点
サブ拠点
自然と人との交流空間
住宅地域内での市民の協働のネットワーク
水と緑に関わるネットワーク
散策のネットワーク
農との連携
広大な自然空間の魅力づくり
ハケの道
を活用して、
動の輪を広げる
小中学校での環境学習と連携し
地区の交流ができるサブ拠点をつくる
歴史的・文化的遺産を活用して
散策の道づくりを工夫する
旧街路沿いの屋敷林や高塀の保全、復活で
新たな散策の道づくりを工夫する
古利根沼の森で、様々な人々が
関わる雑木林づくりを進める
集落の中の道や里道を活かして
新たな散策の道づくりを工夫する
布湖排水路沿いの散策ルートで、
自然とのふれあい空間をつくる
湿地・水田の生物を育み、
魅力を再発見できるしくみをつくる
利根川の風景と広がりを感じら
れる工夫を行う
竹内神社・宮ノ森公園などを
自然環境の核となる拠点とする
古利根沼
岡発戸
古戸
湖北
湖北台
新木野
新木
中里新田
新木村下
浅間前新田
布佐下新田
布佐
地区の宝である葺不合神社周辺
を活用した自然観察の場をつくる
地道な努力を重ねている
農業との連携・交流を進める
新たな市街地形成で
まちを演出する工夫を行う
気象台記念公園を活用した
地区の新たな環境の拠点をつくる
市民全体の活動により
住宅地の緑のつながりをつくる
街区公園・学校でのビオトープ
ネットワークで地区の拠点機能を
つくる
浅間前・布佐下で市民が守り育てる
環境づくりの輪を広げる